

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	静岡県 富士土木事務所
ふ り が な	れきしをつむぎ、みらいへつなぐ。ちいきをささえる2つのかけはし ～ふじかわかりがねばしのかいとうとふじかわばしかいとう 100しゅうねん～
1. 事業(施策)の名称	歴史を紡ぎ、未来へ繋ぐ。地域を支える2つの架け橋 ～富士川かりがね橋の開通と富士川橋開通 100 周年～
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	【富士川かりがね橋】平成 14 年 ～ 令和6年 【富士川橋】大正 13 年8月開通、令和6年度開通 100 周年事業実施
3. 事業費(工事費)	【富士川かりがね橋】約 13,000 百万円 【富士川橋】0.85 百万円 ※大正当時
4. キーワード	地域との協働、橋名揮毫 ^{きごう} 、渋滞緩和、100 年橋梁、産官学連携、広報・PR
5. 事業概要	
令和6年3月に開通した「富士川かりがね橋」と、令和6年8月に開通 100 周年を迎えた「富士川橋」、一級河川富士川に架かる新旧2つの橋において、地域との協働や産官学連携の取組を通じて多様な事業 PR を展開した。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b)鋼7径間連続鋼床版箱桁橋の採用	(a)地域と進める橋名揮毫プロジェクト (a)未来の担い手が選ぶ記念ロゴマーク (b)産官学連携による多様な事業 PR (c)地域密着メディアと特設ページの活用 (d)異業種(インフラ×健康)コラボイベント
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)慢性的な渋滞の緩和 (e)富士山や富士川と調和した良好な景観形成の実現	(a)道路行政への関心の継続 (g)近隣小学校から始まる地域風土醸成

7. 特にアピールしたい点
奇しくも同じ年に節目を迎えた新旧2つの橋梁において、地域住民が橋に親しみを感じ、愛着が深まるよう、多様な事業 PR を展開した。 新たに開通した富士川かりがね橋では、地域の未来を担う高校生に橋名揮毫を託すことで、地域住民と一体となって事業 PR を進めた。 開通 100 周年を迎えた富士川橋では、大学や博物館、道の駅、施工会社等との産官学連携により、インフラメンテナンスへの理解促進や担い手確保に繋がる記念事業を実施した。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



富士川かりがね橋(供用開始前の朝焼け)



富士川橋と 100 周年記念ロゴマーク



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

◆位置図



◆橋梁諸元

橋 梁 名	富士川橋	富士川かりがね橋
橋 長	399.4 m	741.5 m
形 式	鋼6径間単純 曲弦プラットラス橋	鋼7径間連続 鋼床版箱桁橋
事業期間	大正 13 年開通	平成 14 年～令和6年
事 業 費	0.85 百万円 ※大正当時	約 13,000 百万円
管 理 者	静岡県 富士土木事務所	

◆事業概要と橋の特徴【富士川かりがね橋】

- ・富士市の平野部において、一級河川富士川に架かる一般道路の橋梁は、国道1号「新富士川橋」(河口から 1.5km)と、一般県道富士由比線「富士川橋」(河口から 4.5km)の2橋梁のみであった。富士川橋では上下線で 22,488 台/日(令和3年センサス)もの交通量があり、特に朝夕の通勤時間帯を中心に交通渋滞が発生し、地域の社会生活や経済活動に大きな影響を及ぼしていた。このため、慢性的な交通渋滞の緩和や富士川東西地域間の交流の促進、緊急輸送路の補完などを目的として、富士川かりがね橋の建設が平成 14 年度からスタート(＝事業化)した。
- ・日本三大急流の一つである富士川に架橋するため、富士川の治水への配慮から、軽量で支間長が長く、経済性に優れる鋼床版箱桁橋を採用した。また、橋長 741.5m に対して7径間を連続化したことで、下部構造を小さくするとともに支承や伸縮装置の数を減らし、維持管理性や走行性に優れたものとした。
- ・架橋にあたっては、近隣の観光施設「道の駅富士川楽座」「富士川 SA」などから見える富士山や富士川の美しい眺望への配慮が必要であったため、設計段階から有識者にアドバイスいただきながら、塗装板を用いた現地確認などの景観検討を行った。桁の色彩には一般的なグレーベージュ 10YR6/1 よりも明度を下げた 10YR5/1 を採用することで周辺環境に調和させるとともに、付属物は目立たないシンプルなデザインとした。



【イメージ図】右岸下流側から望む



【施工後】右岸下流側から望む

- ・概略検討から工事完成に至るまで、数多の関係者との協議・調整、設計・施工、そして用地提供を含む地域の皆様からの多大なるご協力により、事業化から約 20 年(構想期間も含めると約 40 年)もの歳月を経て、令和6年3月9日に富士川かりがね橋が開通した。

・当事務所ホームページ内に本事業の特設ページを開設し、リーフレットや SNS 投稿などの各媒体において共通 QR コードを用いることで、庁内外関係者や一般の方々への効率的・効果的な情報発信に繋げた。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

・より多くの方々に 100 周年を周知するため、本橋周辺に横断幕を掲出したほか、単発的ではなく継続的な情報発信となるよう、管内の商業施設で本事業 PR のためのパネル展を巡回開催(＝場所と時期をずらして開催)した。



100 周年記念横断幕



パネル展@イオンモール富士宮、道の駅富士川楽座



QR コード

・資料収集段階において、架設時(100 年前)を含む本橋関連工事受注会社や富士市立博物館など、多方面の関係機関への営業(協力依頼)を実施した。本取組への共感とともに提供いただいた観光・歴史関連資料や施工後の社内報などを活用することで、富士川橋に関するあらゆる情報をとりまとめた記念リーフレットを制作した。リーフレット発行後、新聞記事への掲載当日だけでも 10 件以上の問合せが寄せられるなど、地域住民を中心に大きな反響があった。

・記念ロゴマークの制作において、未来を担う子どもたちに本事業を身近に感じていただくため、事前にデザインした 3 案によるアンケート投票を実施した。富士市内の小・中学生から 5,245 件が集まり、記念ロゴマークを決定した。

・産官学連携の地域住民向けイベント「かりがねウォーク 2024」を開催した。静岡理科大学の中澤教授と富士市立博物館の杉本学芸員を講師に迎え、富士川に架かる 2 つの橋や地域の歴史、身近なインフラ施設の役割などを学びながら、全長約 6.0km のコースを歩いた。地元参加者 20 名から講師への質問が活発に挙がるなど、充実したフィールドワークとなった。また、本イベントは健康増進にも繋がることから、静岡県富士健康福祉センターと連携し、本イベント拠点で野菜摂取啓発活動(ベジチェック)と本事業 PR パネル展を同日コラボ開催した。インフラづくりと健康づくり、それぞれ普段の PR 活動と異なる層にアプローチでき、イベント全体の集客にも繋がった。(以下写真参照)



・本事業をきっかけに富士川橋近隣の富士市立富士川第一小学校から依頼があり、地域の歴史を調べる 3 年生の総合学習の一環として、富士川渡河の歴史と富士川橋を学ぶ出前講座を開催した。100 年前の施工会社(勝呂組、かつろぐみ)の後身である三井住友建設株式会社静岡支店にも地域密着・官民連携の企業 PR として協力いただき、模型教材を使った橋梁構造の体験ブースは大盛況であった。本講座は来年度以降も継続的に開催予定であり、富士川橋やインフラづくりに愛着を持てるような地域風土の醸成、担い手確保に繋がる大きな一歩となった。(以下写真参照)

